



前回別工事で使用した通路を使用するのではなく、別の仮設道路を作成し現場へより近く、より多くの資材を運搬できるような仮設道路を検討した。

施工個所の対岸にある民地を借地し地主の了解を得て地山に切盛土を行い、松沢川は仮設パイプを設置し水替えをした。また急勾配箇所や切土だけでは対処できない場合は、河川盛土で使用する盛土材料を仮設道路用に使用し、現場下部へ侵入できる幅員3.0m 最大勾配18%延長80mの車両の出入りはできないが不整地運搬車は安易に走行の出来る仮設道路を作成した。

山腹水路工の施工に関しては、水路工事では通常下流側より上流側へ施工すると雨水排水や施工性を考えた時に良いのですが、下流側より施工した場合には施工した水路の上に養生の敷き鉄板等を設置しなければ重機がコルゲートフリユームを傷つけてしまうことが予想され施工性の不利を感じた。また仮設道路を最後まで使用したい観点から前記とは逆の上流側より下流側へ行く逆施工を検討し、実施した。1. 水路工1スパンを連続し掘削する。2. 掘削時に碎石の投入が安易に出来るよう水路横に仮置きする。3. 暗渠工施工後に碎石投入4. コルゲートフリユーム設置。5. 埋め戻し（完了）\*水路設置時にコルゲートのラップ部の下流側が下に無いと流水の妨げになり漏水の原因になることから、コルゲートの設置は1スパン連続して下流側より設置し、ラップ部に注意をし施工した。

上記のことにより、現場への資材運搬が安易に



図-2 仮設道路



図-3 施工状況

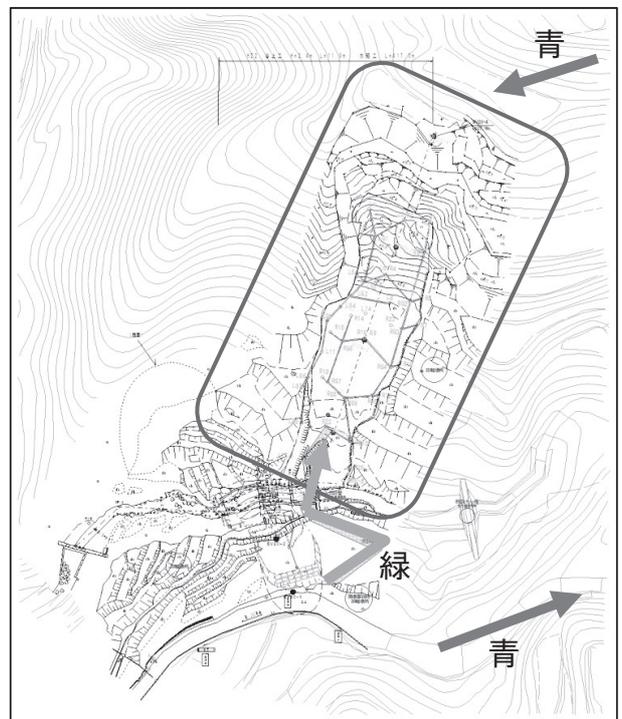


図-4 現場詳細図

梓水路工施工個所、緑線仮設道路、青線以前の通路を行うことができたことで不備のない資材運搬を行うことができ降雪前の11月中での水路工を完成することができた。また資材の2次運搬をなくすことにより大幅な経費削減を行うことができた。

#### 4. おわりに

今回の施工方法は代理人の私と職長で検討し実施した考えでした。柔軟な考えを持ち実際に施工を行う作業員の人たちと施工方法の検討を十分にを行い現場一丸となって工事を進める大切さを改めて感じた工事でした。